

別記様式第2号

令和 3年8月2日

調 査 報 告 書	(会派の場合) 尚政会 会派の名称			
	代表者氏名 笠原 俊一			
	(会派以外の場合) 議員氏名			
参加議員	笠原 俊一	議員	伊東 圭介	議員
	荒井 直彦	議員	土佐 洋子	議員
		議員		議員
		議員		議員
視 察 先	(1) イズシカ問屋内の「伊豆市有害鳥獣処理施設」			
	(2) 静岡県下田市市長			
	(3) 下田市議会			
視察目的 (項目)	(1) 加工後の不要物の処理は、どのような手段で実施しているか。			
	(2) 計画から稼働までの期間はどのくらいでしたか。			
	(3) 補助金項目の種類についてご教示ください。			
【調査内容・概要】				
7月15日 イズシカ問屋 杉本 MR.他1名、羽多野市議会議員(伊豆市)				
1. 今回の目的は、イズシカ問屋で使用している「伊豆市有害鳥獣処理施設」				
の概要と総費用の補助金内訳等を調査する事、また、運営方法や導入				
するまでの経過や現場での発生している匂いを確かめたく、伺った。				
① 伊豆市有害鳥獣処理施設の概要				
平成30年3月16日から本格稼働 1日の処理量 = 150 Kg				
総工費 40,532,400円 国負担 22,292,820円 55%				
県負担 6,079,860円 15%				
市負担 12,159,720円 30%				
導入した理由は、年間、不要物の処理費として、約700万かかっていた事や				
持ち込まれる量が毎年、増大し、従来の保管場所が手狭になって、対策が必要				
であった。不要物処理は、東京の業者に委託していた。				
現在の処理費委託費は 約100万円(どうしても不要物が発生する)				

②施設の外観

当初、施設はシャッターが閉じていたため、匂い等は、気にならなかったが、シャッターを開けてからは、独特の匂いが漂い始めた。

多分この匂いが原因で前担当者が、改善を模索しながら、検討をしていたと思われる。

持ち込まれる量が多く、処理能力が限界を超えているのも問題である。

③ イズシカ問屋の場所は、山の中にあり、私有地に設置。

年間の経費は 全体の地代として 30万で土地所有者に支払い。

現在は、伊豆市食肉加工センターとして運営されていて 職員は全員で8名、市職員が4名 肉加工専門員3名、事務員1名（常勤）

販売先は 市内では 9ヶ所、また、動物園にも販売しているとの
トラとライオン用の肉として、神奈川県内にも取引をされている。

詳細は イズシカ問屋 及び 有害鳥獣処理施設概要 資料参照

④ その他 今回の視察では、鹿の加工を1から順番に説明を受け、熟成させて行く行程を見させて頂き、現場の業務の説明が中心でしたが、次回の機会に別の角度からで 食育や取り扱い金額、総売上等、研修するべきと思います。

2. 7月16日 静岡県下田市 松木市長 表敬訪問 同席山梨町長

議会交流会 橋本議長他

自己紹介・情報交換

おもな事項 葉山議会に質問

*タブレットの導入について

*御用邸ブランドについて



* 市役所の入り口、左手 掲示板写真

以上